第1章

ご使用になる前に

■この章でおこなうこと

製品の概要やパッケージの内容について説明します。以後の作業を中断することなくスムーズに進めるためにも、必ずお読みください。

1.1 製品の概要

本製品をお使いになる前に、次のことを知っておいてください。

■ 本製品について

本製品は、USB ポート用 ADSL モデム（以降、ADSL モデムと表記）とスプリッタのセット製品です。

主な特長

- 米国規格協会（ANSI）T1.413 issue2 準拠。
- 国内標準規格 Annex C（G.dmt/Lite）および Annex A（G.dmt/Lite）準拠。
- 同梱のスプリッタを使用することにより、電話と同時にインターネットが使用可能。
- 下り速度：最大 8Mbps、上り速度：最大 1Mbps。

※ 上記の速度は、最大通信速度であり、実際の通信速度を保証するものではありません。ご利用の電話回線およびお客様宅内配線状況によっては、最大通信速度に達しない場合があります。

- PPPoE/PPPoA/RFC1483 対応。

本製品が使用できるのは、下記のパソコンで、下記の OS がインストールされている機種です。

対応パソコン

USB 規格 Revision 1.1 以降の USB ポート（タイプ A）を搭載した、以下のパソコン

- DOS/V 機（OADG 仕様）
- NEC PC98-NX シリーズ

※ 本製品は、パソコンの USB ポートに直接接続して使用することを推奨します。

対応 OS

WindowsXP、WindowsMe、Windows98、Windows2000

※ ACPI 機能およびレジューム機能には対応しておりません。

⚠注意 本製品を接続するパソコンでトレンドマイクロ社製「ウィルスバスター 2001」をご使用になっている場合、本ソフトのパーソナルファイアウォール機能と競合を起こす可能性があります。そのため、本製品のドライバのインストールができなかったり、600kbps 以上の通信速度が出ないなどの症状が出たり、最悪の場合はパソコンが停止してしまう場合があります。現在、トレンドマイクロ社では、下記アドレスにて対応モジュールを配布しております。

http://www.trendmicro.co.jp/product/vb2001/adsl.htm

この件に関しての詳細は、トレンドマイクロ社（ http://www.trendmicro.co.jp/ ）にお問い合わせください。

対応 ADSL 会社

対応 ADSL 会社は弊社 AirStation ホームページ（http://www.airstation.com/）で、ご確認ください。

■　ADSL の回線速度について

- ADSL モデムは、インターネットへの接続のたびに、接続時の回線品質で最適な通信速度が設定されます。通常、自動設定された速度はモデムの USB ケーブルをパソコンから取り外すか、パソコンの電源を OFF にするまで保持されます。
- 電話回線にノイズが入るなど、一時的に現在の速度での通信を維持できないまでに回線品質が劣化した場合、自動的に通信速度が再設定され、低い速度で再接続されることがあります。この場合、回線品質が改善しても自動的には元の高い通信速度に戻らないため、元の速度に戻すには、手動で再接続しなおす必要があります。
- 電話局との距離により、十分な通信速度を得られない場合があります。距離が長くなると減衰やノイズの影響などによって最大転送レートが下がるため、電話局から 5.4km までの範囲での利用を推奨します。
- 設備状況、他回線からの影響、お客様宅内で接続されている通信設備（ACR（LCR））、高圧電線、線路横、違法無線などにより、通信速度が落ちることがあります。

1.2 あらかじめ確認してください

本製品の導入をおこなう前に、次のことを確認しておく必要があります。

■ ADSL 回線について

ADSL 回線の申し込みまたは設置工事は完了していますか？

工事が終了していれば、すぐにインターネット接続をご利用いただけます。（ただし、プロバイダ会社との契約が必要です）

⚠注意 ご契約時のサービス種別について

ADSL サービスには、利用される電話回線の形態により、タイプ 1 ／タイプ 2 のサービス種別があります。

タイプ 1（既存アナログ回線使用／ NTT 加入電話との共用）

現在ご利用中の電話回線（アナログ回線）を使用して、ADSL をご利用いただけます。

タイプ 2（ADSL 専用のアナログ回線敷設）

現在 ISDN、専用線をご利用中であるなど、インターネット接続にアナログ回線を利用されていない場合、ADSL 専用のアナログ回線をひいて、ADSL をご利用いただけます。（NTT 施設設置負担金は不要ですが、本回線での通常の電話はご利用いただけません）

タイプ 1 でご契約される場合、下記の点にご注意ください。

- ISDN 回線ではご利用いただけません。アナログ回線へ変更していただくか、タイプ 2（ADSL 専用のアナログ回線敷設）をご利用ください。
  ※ ISDN 回線からアナログ回線への変更には手数料がかかります。詳細は、NTT 東日本または NTT 西日本へお問い合わせください。
- ISDN 回線からアナログ回線へ変更される場合は、NTT での「適合性確認」でサービス提供可能と確認された後に手続きをおこなってください。詳細は、ADSL 業者／プロバイダにお問い合わせください。
  ※ ISDN 回線からアナログ回線へ変更した場合、電話番号が変更になる可能性があります。詳細は、「116」へお問い合わせください。

■ プロバイダ登録について

ADSL プロバイダ会社とのインターネット接続契約は、お済みですか。本製品をお使いになる前に、プロバイダ会社との契約を済ませておいてください。

ADSL モデムの設定時に次ページの情報が必要です。お手元に、プロバイダから送られてきた資料をご用意ください。

メモ 本製品を使ってオンラインサインアップすることはできません。

■　プロバイダの設定を控えておいてください

ADSL モデムの設定時に下記の情報が必要です。プロバイダから送られてきた資料を参照し、下記の欄に記入しておきましょう。

プロバイダから指示される TCP/IP 設定

自動設定　　／　　手動設定　（どちらかを丸で囲みましょう）

IP アドレス（手動設定の場合）:

.　　　.　　　.

サブネットマスク（手動設定の場合）:

.　　　.　　　.

デフォルトゲートウェイアドレス（手動設定の場合）:

.　　　.　　　.

プロバイダから指示される DNS サーバアドレス

指定なし　　／　　指定あり　（どちらかを丸で囲みましょう）

DNS サーバアドレス（プライマリ）（プロバイダから指定されたときのみ）:

.　　　.　　　.

DNS サーバアドレス（セカンダリ）（プロバイダから指定されたときのみ）:

.　　　.　　　.

PPPoE/PPPoA の設定

※ PPPoE/PPPoA のどちらを使用するかは、契約したプロバイダによります。

接続ユーザー名（アカウント名、アカウント ID 等）:

プロバイダ識別子（プロバイダから指定されたときのみ）:

接続パスワード :

サービス名（プロバイダから指定されたときのみ）:

■ パソコンの Windows のバージョンを確認する

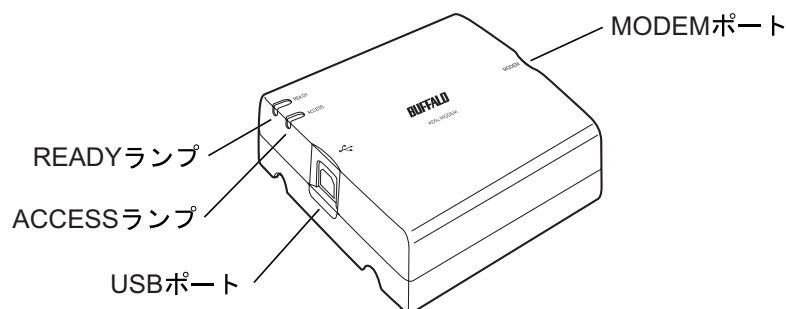
作業を始める前に、次の手順で、お使いのパソコンの Windows のバージョンを確認してください。

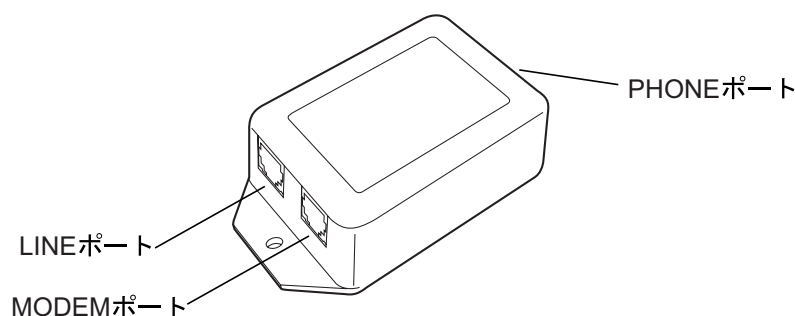
1 デスクトップ画面の［マイコンピュータ］を右クリックし、［プロパティ］をクリックします。
WindowsXP をお使いの方は、［スタート］をクリックし、［マイコンピュータ］右クリックして、［プロパティ］をクリックします。

2 表示された画面で、システム名（Windows の名称）を確認します。

1.3 パッケージ内容と製品各部の名称

パッケージには次のものが梱包されています。万一、不足しているものがありましたら、お買い求めの販売店にご連絡ください。

• ADSL モデム .... 1 個

名　称	はたらき
READY ランプ	点灯（青）: パソコンから電源供給されているとき
ACCESS ランプ	点灯（青）: 通信中または通信可能状態

• スプリッタ .... 1 個
タイプ 1 のサービス種別で利用する場合に、電話音声と通信データを分離するための装置です。インターネット接続中でも、電話／ FAX が同時に利用できます。

• USB ケーブル（1.0m）.............................. 1 本
• モジュラケーブル（3.0m）.......................... 1 本
• モジュラケーブル（1.0m）.......................... 1 本
• IGM-U8MACT ドライバ CD .... 1 枚
• IGM-U8MACT ユーザーズマニュアル（本書）............ 1 冊
• 壁取り付けネジ（ADSL モデム用）..................... 2 本
• 壁取り付けネジセット（スプリッタ用）................ 1 セット
• ユーザー登録はがき、保証書 .... 1 枚

メモ
- ユーザー登録はがきは、保証書を切り離した後、必要事項をご記入の上、必ず弊社までご返送ください。また、切り離した保証書は大切に保管してください。
- 追加情報が別紙で添付されている場合は、必ず参照してください。